【資料１】

「これからの高校づくりに関する指針」の素案と案の対比表

これからの高校づくりに関する指針（素案）	これからの高校づくりに関する指針（案）	修正等の考え方
第１章　基本的な考え方 １　指針の趣旨等 (1) 指針の趣旨 本指針は、近年のグローバル化や情報化の進展などの社会の急速な変化や、生徒の興味・関心、進路希望等の多様化、中学校卒業者数の減少など高校を取り巻く環境の変化に対応し、未来を担う人材を育む教育環境の維持向上を図るため、これからの高校づくりに当たっての基本的な考え方と具体的な施策を示すものです。 なお、「新しい教育計画」を踏まえて策定するものです。	第１章　基本的な考え方 １　指針の趣旨等 (1) 指針の趣旨 本指針は、近年のグローバル化や情報化の進展などの社会の急速な変化や、生徒の興味・関心、進路希望等の多様化、中学校卒業者数の減少など高校を取り巻く環境の変化に対応し、未来を担う人材を育む教育機能の維持向上を図るため、これからの高校づくりに当たっての基本的な考え方と具体的な施策を示すものです。 なお、「新しい教育計画」を踏まえて策定するものです。	【本文Ｐ１】 ○　文言整理
２　公立高校の配置 (1) 現状と課題 ア　取組の現状 本道における公立高校の配置について、道教委では、これまで旧指針に基づき、毎年度、配置計画を策定して、適切な高校配置に努めてきたところであり、高校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、募集定員の調整や学校の再編などを行うとともに、総合学科の設置、単位制、普通科フィールド制、中高一貫教育の導入など多様なタイプの高校づくりに取り組むほか、地域の教育環境の維持・充実のため、地域キャンパス校の導入などを進めてきました。	２　公立高校の配置 (1) 現状と課題 ア　取組の現状 本道における公立高校の配置について、道教委では、これまで旧指針に基づき、毎年度、配置計画を策定して、適切な高校配置に努めてきたところであり、高校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、募集定員の調整や学校の再編などを行うとともに、総合学科の設置、単位制、普通科フィールド制、中高一貫教育の導入など多様なタイプの高校づくりに取り組むほか、地域の教育機能の維持向上のため、地域キャンパス校の導入などを進めてきました。	【本文Ｐ２】 ○　文言整理
(2) 配置の基本的な考え方 ア　全日制課程 (ｱ) 小規模校（第１学年３学級以下の高校）の取扱い ｂ　第１学年２学級以下の高校 (b)　地域連携特例校の取扱い 第１学年１学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿は地域連携特例校として、存続を図ります。 なお、５月１日現在の第１学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備を進めます。	(2) 配置の基本的な考え方 ア　全日制課程 (ｱ) 小規模校（第１学年３学級以下の高校）の取扱い ｂ　第１学年２学級以下の高校 (b)　地域連携特例校の取扱い 第１学年１学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校（旧指針における地域キャンパス校）は地域連携特例校として、存続を図ります。 なお、５月１日現在の第１学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備を進めます。	【本文Ｐ４】 ○　「地域キャンパス校」は「地域連携特例校」に名称変更したことがわかるように記載すべきとの意見を踏まえ修正

これからの高校づくりに関する指針（素案）	これからの高校づくりに関する指針（案）	修正等の考え方
(c)　農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校の取扱い 農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、５月１日現在の第１学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備を進めます。	(c)　農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校の取扱い 第１学年１学級の高校のうち、農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、５月１日現在の第１学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備を進めます。	【本文Ｐ５】 ○　対象となる高校は、第１学年１学級の高校である旨を明確にするため追記
(d)　地域の取組を勘案した特例的取扱い 地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、地方創生に取り組む地域との連携のほか、地域において、本道の基幹産業である一次産業や安心な暮らしを支える医療・福祉を担う人材を育成する観点から、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備を留保します。 ただし、この場合にあっても、５月１日現在の第１学年の在籍者数が２年連続して10人未満となった場合には、再編整備を行います。	(d)　地域の取組を勘案した特例的取扱い 第１学年１学級の高校のうち、地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、地方創生に取り組む地域との連携のほか、地域において、本道の基幹産業である一次産業や安心な暮らしを支える医療・福祉を担う人材を育成する観点から、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備を留保します。 ただし、この場合にあっても、５月１日現在の第１学年の在籍者数が２年連続して10人未満となった場合には、再編整備を進めます。	【本文Ｐ５】 ○　対象となる高校は、第１学年１学級の高校である旨を明確にするため追記 ○　他の再編整備の文末表現と統一性を図るべきなどの意見を踏まえ修正
(ｲ) 複数学科設置校の取扱い 複数の学科を設置している高校については、中学校卒業者数の状況に応じて学科の再編整備などを進めるほか、５月１日現在の第１学年全体で40人以上の欠員があり、その後も生徒数の増が見込まれない場合においても、学科の再編整備などを進めます。	(ｲ) 複数学科設置校の取扱い 複数の学科を設置している高校については、中学校卒業者数の状況に応じて学科の再編整備などを進めるほか、５月１日現在の第１学年全体で40人以上の欠員があり、その後も生徒数の増が見込まれない場合においても、地域の実情や学校・学科の特性などを考慮しながら、学科の再編整備などを進めます。	【本文Ｐ５】 ○　複数学科設置校の取扱いについては、地域の実情や学科の役割について配慮すべきなどの意見を踏まえ追記
(ｳ) 都市部において複数の学校がある場合の取扱い 複数の学校が配置されている都市部においては、第１学年４学級以上の学校についても、地域の実情などを踏まえながら、再編を進めます。	(ｳ) 都市部において複数の高校がある場合の取扱い 複数の高校が配置されている都市部においては、第１学年４学級以上の高校についても、地域の実情などを踏まえながら、再編を進めます。	【本文Ｐ５】 ○　文言整理
イ　定時制課程 (ｱ) 第１学年１学級の　　取扱い 第１学年１学級の高校については、５月１日現在の第１学年の在籍者が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備を進めます。	イ　定時制課程 (ｱ) 第１学年１学級の高校の取扱い 第１学年１学級の高校については、５月１日現在の第１学年の在籍者が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備を進めます。	【本文Ｐ６】 ○　文言整理

これからの高校づくりに関する指針（素案）	これからの高校づくりに関する指針（案）	修正等の考え方
(3) 配置計画の策定 生徒の進路選択や将来を見据えた学校経営を考慮し、３年間の具体的な配置計画とその後４年間の見通しを示した配置計画を毎年度策定します。 配置計画を策定した後、急激な中学校卒業者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動などが生じた場合は、必要に応じて配置計画の一部を変更します。 市町村立高校の配置等については、設置者である市町村と協議し、配置計画に反映します。 また、配置計画の策定に当たっては、各通学区域ごとに「地域別検討協議会」を開催し、これまで以上に幅広く丁寧に意見を伺うほか、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿再編整備などの検討が必要な学校が所在する地域においては、関係市町村に対して、できるだけ早期に必要な情報や検討すべき課題を示すなどして、地域における協議を促進します。 なお、地元市町村から、高校を核とした地域振興や特色ある学校づくりを進めるため、道立高校から市町村立高校への移管の要望がある場合は、当該市町村と協議を進めます。移管に当たっては、魅力ある高校づくりに向けた市町村の取組に必要な協力を行います。	(3) 配置計画の策定 生徒の進路選択や将来を見据えた学校経営を考慮し、３年間の具体的な配置計画とその後４年間の見通しを示した配置計画を毎年度策定します。 配置計画を策定した後、急激な中学校卒業者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動などが生じた場合は、必要に応じて配置計画の一部を変更します。 市町村立高校の配置等については、設置者である市町村と協議し、配置計画に反映します。 また、配置計画の策定に当たっては、各通学区域ごとに「地域別検討協議会」を開催し、これまで以上に幅広く丁寧に意見を伺うほか、関係市町村とも十分に協議します。 さらに、将来的に再編整備などの検討が必要な学校が所在する地域においては、関係市町村に対して、できるだけ早期に必要な情報や検討すべき課題を示すなどして、地域における協議を促進します。 なお、地元市町村から、高校を核とした地域振興や特色ある学校づくりを進めるため、道立高校から市町村立高校への移管の要望がある場合は、当該市町村と協議を進めます。移管に当たっては、魅力ある高校づくりに向けた市町村の取組に必要な協力を行います。	【本文Ｐ７】 ○　高校が再編整備などの対象となる場合には、地域と十分に協議するなどの文言を記載すべきなどの意見を踏まえ追記
第２章　社会の変化や時代の要請に応える高校づくり １　活力と魅力のある高校づくり (3) 特色ある学校 イ　単位制高校 単位制高校では、生徒の興味・関心や進路希望等に応じて、多様な選択科目を開設するとともに、少人数指導や習熟度別指導、ティーム・ティーチングなどのきめ細かな学習指導が行われています。 現在、全日制の道立高校27校の普通科に単位制を導入しており、市町村立高校でも２校に導入されています。＿＿＿＿＿＿専門学科については、根室市内の再編により新設した根室高校の商業科に平成29年度、初めて導入しました。 また、平成29年度に公表した配置計画において＿、道立高校では、平成30年度に１校、平成31年度に１校、市町村立高校では、平成32年度に１校導入することとしています。 単位制については、生徒一人一人の興味・関心等に応じて、主体的に学習に取り組むことが可能であることや、少人数によるきめ細かな学習指導を充実させることができることなどから、普通科のほか、専門学科においても学科の特性等を考慮しながら導入を検討します。	第２章　社会の変化や時代の要請に応える高校づくり １　活力と魅力のある高校づくり (3) 特色ある学校 イ　単位制高校 単位制高校では、生徒の興味・関心や進路希望等に応じて、多様な選択科目を開設するとともに、少人数指導や習熟度別指導、ティーム・ティーチングなどのきめ細かな学習指導が行われています。 現在、全日制の道立高校27校＿＿＿＿に単位制を導入しており、市町村立高校でも２校に導入されています。そのうち、専門学科については、根室市内の再編により新設した根室高校の商業科に平成29年度、初めて導入しました。 なお、平成29年度に公表した配置計画においては、平成30年度から平成32年度までに、新たに道立高校では専門学科を含め３校、市町村立高校では１校に導入することとしています。 単位制については、生徒一人一人の興味・関心等に応じて、主体的に学習に取り組むことが可能であることや、少人数によるきめ細かな学習指導を充実させることができることなどから、普通科のほか、専門学科においても学科の特性等を考慮しながら導入を検討します。	【本文Ｐ１１】 ○　単位制を導入している学校数を分かりやすく示すため修正

これからの高校づくりに関する指針（素案）	これからの高校づくりに関する指針（案）	修正等の考え方
2　経済社会の発展に寄与する人材を育む高校づくり (1) 北海道の基幹産業を担う農業科・水産科 ア　農業に関する学科 農業に関する学科は、道立高校に、農業科、農業科学科、園芸科、園芸科学科、園芸デザイン科、畜産科学科、酪農科学科、酪農経営科、食品科学科、農業土木工学科、環境造園科、森林科学科、生活科学科、生産科学科、農業・生活科、生産環境科学科、地域資源応用科の計17の小学科、また、市町村立高校の全日制に、アグリビジネス科、生産技術科、地域農業科、フードシステム科、食品ビジネス科の計５の小学科があり、市町村立高校も含めて18校に配置しています。 農業は本道の基幹産業の一つであり、農業科配置校においては、農業経営者はもとより、大学や試験研究機関、地域産業界等と連携を深め、農業の＿＿＿＿＿６次産業化など、農業を取り巻く産業構造の変化に対応しながら、農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育むなどして、本道の農業や関連産業を担う人材を育成する必要があります。 こうしたことから、農業に関する学科については、全道的な学校・学科の配置状況などを踏まえながら適切な配置となるよう検討することとし、学級数を減ずる場合等は、複数の学習内容に対応した学科に転換するなど、可能な限り生徒の学習選択幅を確保するよう配慮します。	2　経済社会の発展に寄与する人材を育む高校づくり (1) 北海道の基幹産業を担う農業科・水産科 ア　農業に関する学科 農業に関する学科は、道立高校に、農業科、農業科学科、園芸科、園芸科学科、園芸デザイン科、畜産科学科、酪農科学科、酪農経営科、食品科学科、農業土木工学科、環境造園科、森林科学科、生活科学科、生産科学科、農業・生活科、生産環境科学科、地域資源応用科の計17の小学科、また、市町村立高校の全日制に、アグリビジネス科、生産技術科、地域農業科、フードシステム科、食品ビジネス科の計５の小学科があり、市町村立高校も含めて18校に配置しています。 農業は本道の基幹産業の一つであり、農業科配置校においては、農業経営者はもとより、大学や試験研究機関、地域産業界等と連携を深め、農業のグローバル化や６次産業化など、農業を取り巻く産業構造の変化に対応しながら、農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育むなどして、本道の農業や関連産業を担う人材を育成する必要があります。 こうしたことから、農業に関する学科については、全道的な学校・学科の配置状況などを踏まえながら適切な配置となるよう検討することとし、学級数を減ずる場合等は、複数の学習内容に対応した学科に転換するなど、可能な限り生徒の学習選択幅を確保するよう配慮します。	【本文Ｐ１５】 ○　「グローバル化の進展」など、今後とも農業施策として継続されるものを記載すべきとの意見を踏まえ追記
3　地域とつながる高校づくり (1) 地域連携特例校 地域の教育機能の維持向上の観点や高校が地域で果たしている役割等を踏まえ、第１学年１学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿は、地域連携特例校（以下「特例校」という。）に位置付け、地域連携協力校（以下「協力校」という。）等との連携した教育活動などにより、教育環境の充実を図ります。 また、少人数であっても、生徒の学習ニーズに対応した教育課程の編成を工夫するとともに、他校との積極的な交流を通じて、可能な限り切磋琢磨できる環境を整備します。	3　地域とつながる高校づくり (1) 地域連携特例校 地域の教育機能の維持向上の観点や高校が地域で果たしている役割等を踏まえ、第１学年１学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校（旧指針における地域キャンパス校）は、地域連携特例校（以下「特例校」という。）に位置付け、地域連携協力校（以下「協力校」という。）等との連携した教育活動などにより、教育環境の充実を図ります。 また、少人数であっても、生徒の学習ニーズに対応した教育課程の編成を工夫するとともに、他校との積極的な交流を通じて、可能な限り切磋琢磨できる環境を整備します。	【本文Ｐ１７】 ＜再掲＞ ○　「地域キャンパス校」は「地域連携特例校」に名称変更したことがわかるように記載すべきとの意見を踏まえ修正

これからの高校づくりに関する指針（素案）	これからの高校づくりに関する指針（案）	修正等の考え方
ウ 地域と連携した取組 特例校では、学校と地域の連携・協働をより一層推進するため、市町村、小・中学校、地元企業、協力校、教育局などで構成する協議会の設置や、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の活用を検討します。 また、こうした組織の支援等のもと、地域の様々な教育資源を積極的に活用して、生徒の社会に参画する意欲を育んだり、地域の担い手としての自覚を高めたりするような教育活動を推進するなど、学校と地域が連携した学校の魅力化や特色づくりなどを進めます。	ウ 地域と連携した取組 特例校では、学校と地域の連携・協働をより一層推進するため、市町村、小・中学校、地元企業、協力校、教育局などで構成する組織等の設置や、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の活用を検討します。 また、こうした組織の支援等のもと、地域の様々な教育資源を積極的に活用して、生徒の社会に参画する意欲を育んだり、地域の担い手としての自覚を高めたりするような教育活動を推進するなど、学校と地域が連携した高校の魅力化や特色づくりなどを進めます。	【本文Ｐ１８】 ○　文言整理 【本文Ｐ１８】 ○　文言整理